

新しい薬学をめざして

Vol.42 No.4
2013.5.1

発行 新薬学研究者技術者集団

〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8 E-mail shin-yakugaku@tea.ocn.ne.jp
(有)大阪ファルマプラン・あおぞら薬局 気付 郵便振替口座 01090-8-16463
TEL 06-6477-8080 (担当 稲垣) FAX 06-6477-8082 URL http://pha.jp/shin-yakugaku/



やっぱり大事 食品衛生監視員のしごと (4)

監視員生活の37年を振り返って

佐々僚己

南保健所 時代 (1993年～97年)

□腸管出血性大腸菌 0157 による死亡事件と監視員の「責務」

96年、全国のあちこちで0157による集団食中毒事件が発生し、何人もの尊い命が奪われた。その中には大阪府堺市での学校給食による食中毒事件(原因食材として「カイワレ」が疑われた)が含まれており、患者数約8,000名、死者3名にも及んだ。この事件の「陣頭指揮」をとったのが偶然にも私の友人だったことから、事件が終息するまで逐次連絡を取り合う仲であった。彼は連日、マスコミや関係者からの鋭い追及の連続で精神的にも肉体的にもギリギリまで「追いつめられた」状態で数か月を過ごしていたのである。

その彼がその翌年に開催された「全国保健所問題研究交流集会」の「特別講演」でこの事件について報告したのだが、亡くなった学童が書き残した「わたしの夢」(下記)を読み終え、「保健所がもっと監視の目を光らせていたなら…」とつぶやいた途端、嗚咽を交えて泣き崩れてしまった。監視員が置かれている「責任の大きさ」に改めて気付かされる出来事だった。

《わたしの夢》

わたしの夢は大人になったら、花屋になりたいです。わたしは花屋になるためにいろいろな種類の花をしりたいです。そして、いろいろな花を家にかざりたいです。それによって家がとってもきれいになります。そして、いろいろな人に花をうって、よろこばせてあげたいです。きれいな花が大好きです。だから花屋になりたいです。これは堺市で起きた0157食中毒事件でなくなった幼い子供の作文です。

□「冷蔵庫の中の食品は、いつまで大丈夫か？」にトライした15日間

今でこそ食品に賞味期限や消費期限が表示されるようになったが、当時は製造年月日しか表示されておらず、消費者にとって自分が使っている食品がいつまで食べられるかが大きな関心事の一つだった。そして、各種の講習会では「この食品はいつまで食べても大丈夫ですか？」

目 次

□やっぱり大事 食品衛生監視員のしごと (4)	□ミニゼミ：地域に密着した在宅訪問	
佐々僚己…………… 67	早川浩司…………… 73	
□野口 衛さんへの惜別	□新薬学者集団 2013年度総会議案…………… 78	
池上幸江…………… 69	□第10回運営委員会報告…………… 83	
□こだま 5	谷口美保子…………… 70	□13年度総会とシンポジウム(案内)…………… 84
□ミニゼミ：「医薬分業」は国民に役立っているか	寺岡翠雄…………… 72	
(まとめ)		